

放送番組を活用した院内学級における健康教育の授業実践

東京都武蔵野市立境南小学校いとうぎ学級 主任教諭 川口 尚人

特別支援 特別活動 できたできたできた (健康・からだ編)

番組の特徴

体操教室を舞台に、かけっこやなわとびなどの運動のポイントを伝える運動コーナーと、体のしくみや健康に過ごすための知識を伝えるアニメ、「花まる体操」の3つのコーナーで構成。健康への関心と、体を動かす楽しさを届けている。

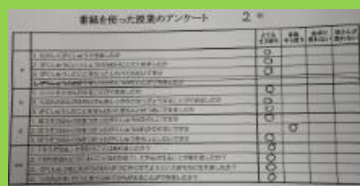
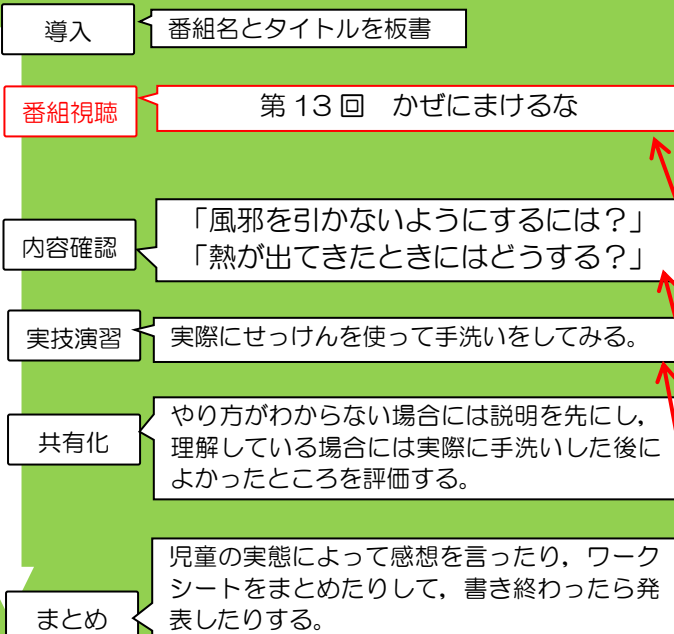
研究の概要

院内学級では、友達同士での活動ができないベッドサイドの場合や、体を動かすことに制限がある場合がある。番組を活用した授業をすることで、低学年や知的代替児童の健康教育についての理解が深まるのではないかと考えた。本研究でも個人学習だったが、本人の楽しそうに集中して視聴する様子やアンケートの結果から、番組が学習のねらいに対して効果的だったのではないかと考える。

授業デザイン (1 単位授業時間)

単元：かぜにまけるな (健康教育 (保健)) (1)

目標：風邪の予防と風邪を引いたときの対策を知る



番組や関連動画クリップの活用意図

わかりやすいアニメの説明、のりのよい歌と体操 対象児童にはわかりにくい事柄を、アニメを使ってわかりやすく説明して理解しやすい。「はなまる体操」がのりやすく、児童の実態に合わせて体を動かすことができる。

個別学習でも友達と一緒にいるように感じる ベッドサイドなど、個別学習がほとんどなので、番組のガッツ王子や友達と一緒にやっているように感じることができ、番組にスムーズに入っていくことができる。

授業デザインにかかわる教師の工夫

感想やつぶやきを表現しやすい環境の設定 視聴中や視聴後に教員と気楽に会話ができるように隣に並んで座って番組を視聴する。一問一答で、会話の中で本人の意見や感想が出てくるように和やかな雰囲気にする。

ミニホワイトボードやフリーノートで板書の工夫 本人の意見や感想をその場で書き留めて板書にする。本人がわかりにくそうな事柄はその都度そのボードや板書用のノートに書き込んで説明する。

実際の活動を通して内容理解 低学年や知的代替の場合には番組を見ただけでなく、同じように実践してみることで事柄を理解できるようになるので、児童の実態に合わせて体を使った活動をできるだけ取り入れる。上半身だけの花まる体操など、一緒に体を動かす。

生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの自己評価から (口頭での聞き取り)

- 楽しかった。
- また番組を見たい。

評価シートから (低学年知的代替用に項目・言い回しを考慮)

- 1回の授業なので継続的に評価できないため、実践後にとったアンケートから見られた項目は以下の通りである。
- 学習への取り組みに関して (a), 学習への態度に関して (b), 特別活動としての項目 (mo) はいい評価だった。
 - アンケートは書くことができなかったため聞き取りで行った。
 - 個々の実態によって授業の進め方を工夫する必要である。今回は本人の様子から視聴後に内容の補足をしながら進めた。

実践を終えてく行動宣言

今回の研究では2年生のそれぞれ通常級と知的固定の支援級の児童で行えた。本学級はその都度学年や人数が異なるので、同じ番組を複数の低学年児童や知的代替の高学年の場合などいろいろな児童の実態でも効果的か、続けてみたい。また、「できたできたできた」3種類の番組から健康教育の分野別 (運動・保健・食育) の年間計画を作成し、系統的に研究を進めていきたいと考えている。また、ほかの番組も含めた、オリンピック・パラリンピック教育の年間計画も作ってみたい。